

## 日本古武道協会

京都下鴨神社・  
白峯神宮で奉納演武

## 澁川一流柔術

5月4、5の両日、京都下鴨神社と白峯神宮で毎年開かれている奉納演武に参加した。演武会は、両神社と日本古武道振興会の共催によって開催されており、澁川一流柔術は指導者が「井の中の蛙」とならないよう、毎年参加している。京都における演武会への参加は、本年度、連続して11回目となった。

4日の下鴨神社での奉納演武は、葵祭の前夜祭として行われており、晴天下、連休中ということもあり、観光客も非常に多く、演武会場を何重にも取り巻くように見学していた。

奉納演武は神事後、昨年から始められた琉球古武術の井上貴勝宗家による、一般の方にも理解しやすい

流派の解説、また同宗家による司会演武初めとして、小笠原流弓馬術（小笠原清忠宗家）「騎射の形」の演武が行われた。

「騎射の形」は、流鏑馬の形、騎射扶物、的立、矢拾、廻木馬などの形がある。木馬を使つての流鏑馬の形は、騎射の中で流鏑馬は最も格式が高く、鎌倉時代の大切な儀式として神奈川県鎌倉市・鶴岡八幡宮などで齋行され、その稽古には木馬が用いられ、廻し木馬では走る速度を覚え、矢を番え放つ稽古に用いられている。また、騎射扶物は、徳川八代将軍吉宗公により再興された騎射の術で、流鏑馬に比べて軽装で、矢を腋に盛らずに腰に差している。演武では、馬上から矢が放たれるたびに、新緑に包まれた神社境内に、見学の方から大きな歓声があがっていた。

小笠原流の演武後、出場流派が多いため、舞殿・橋殿の2カ所に分かれて、それぞれが演武を披露した。（カッコ内は流儀代表者・敬称略）

舞殿では、神夢想林崎流（笹森建美）、心形刀流劍術（小林正郎）、琉球古武術（井上貴勝）、柳生新陰流

兵法劍術（柳生耕一）、鹿島神傳直心影流（谷佐勝）などが行われた。

橋殿では、荒木流軍用小具足（保科侃司）、関口新心流柔術（関口芳夫）、鞍馬流劍術（柴田章雄）、竹内流腰廻小具足（竹内藤十郎）、佐分利流槍術（川瀬一造）、天道流薙刀術（美田村武子）、天神真楊流柔術（久保田敏弘）、立身流兵法（加藤慈）、直心影流薙刀術（園部正美）、風傳流槍術（今西春禎）などの流派の演武が行われた。

総演武流派は24流派、演武者110名による奉納演武で、見学の方はそれぞれ自身が見たい演武を見るため、両会場の間を行ったり来たりされ、活気のある演武会であった。

翌5日の白峯神宮における演武は、白峯神宮の道場で稽古されている空手道、合気道の子供祭武道整潔祭の奉納演武の後、古武道奉納奉告祭としてとり行われた。

奉納演武の前に行われる神事は、源為義公・源為朝公を祀る境内社の伴緒社で行われ、同時に煎茶道方円流による献茶式も行われた。

神事後、演武は前日同様、井上



いご演武（左から森本代表、上園さん）

貴勝宗家による流派解説の司会のもと、神楽殿において順次、一流派ずつ行われた。

下鴨神社と2日連続して奉納演武を行う流派が多く、鞍馬流剣術、立身流兵法、天神真楊流柔術、直心影流薙刀術など、総演武流派16流派、61名による演武であった。

澁川一流柔術は森本邦生が半棒を演武し、竹本康祐が十手と分童を、竹本治恵が六尺棒を演武した。また、同じく道場で稽古する無雙神傳英信流抜刀兵法を森本邦生と上國愛が2日連続して演武し、日頃の稽古の成果を奉納した。

（澁川一流柔術代表・森本邦生）

### 他流派の演武も、とても有意義

上國 愛

稽古を始めて1年半で、京都での大きな演武会に参加させていたただく機会を与えていただきました。入門し半年は歩法、礼法などの基本、形の稽古を始めてちょうど1年たったところでした。

京都での演武会に参加させていたただくために、数カ月前から集中して稽古させていただいたことも私にと

って有益でしたが、他流派の方々の演武を拝見できたのも、とても意義のあることでした。

昨年の秋、厳島神社での日本古武道術技向上演武大会で各流派の解説のアナウンスをさせていただきましたが、その時は初めてのアナウンスということもあり、演武を見学する余裕がありませんでした。今回は下鴨神社、白峯神社の演武会ともに早い演武順であったため、落ち着いてしっかりと演武を見学させていただくことができました。

日頃から森本先生には多くのことを教わっていますが、他流派の演武を拝見することによって先生に教えていただいたことを再認識することができました。例えば鹿島神傳直心影流の演武に呼吸法の大切さを、神夢想林崎流に力みのない自由な動きを、立身流兵法に隙のない心を、直心影流薙刀術に無理無駄のない動きの大切さを、天神真楊流柔術に途切れない動きを、それぞれ学ばせていただきました。

京都ではまた演武会の合間に森本先生がいつも楽しまれている、象嵌（イソカ）や型友神の体験にも連れて行って

いただきましたが、それらの伝統工芸を経験することが武術とは無縁のものではなく、武術の稽古にとって大いに役立つものであるということをもっと経験することができました。

### 何事にも動じない心を感じた

竹本治恵

私は澁川一流柔術に入門以来初めて、京都白峯神社において開催される武道奨励繁栄祭に参加させていただきました。

今まで、厳島神社での日本古武道術技向上演武大会でしか他の流派の方々の演武を拝見させていただいたことがなく、遠方での演武会に参加するのは初めてのことであったので、演武当日まで緊張と不安の連続でした。

演武はといえば、今回は日頃稽古量の少ない六尺棒での演武を命じられ、不安な気持ちのまま演武に臨んだ結果、棒に振り回されてしまい納得できない反省の演武となってしまいました。

今回の演武会を拝見して感じたことは、どの流派の方々も入場から退

場まで堂々としており、何事にも動じない心の余裕を感じました。これは、豊富な稽古量に裏づけされるものだと思います。私は今回の演武は六尺棒でしたので、直心影流薙刀術の先生方の薙刀を自分の身体の一部とされ、切っ先にまで込められた気の迫力から、多くのことを学ばせていただきました。

今後は、影稽古はもうろんのこと、強い心を養えるよう稽古にも工夫を凝らす必要があることを感じました。

棒術を披露する竹本さん（左）

